HITO NEWS

HITO MEDICAL CENTER NEWS

2020.1

No.22

新年ごあいさつ

人生の最終段階を考える

自分で歩く・地域で治す

大活躍の病棟薬剤師

医師紹介

TOPICS

雪が降り積もる冬の三角寺

2020

NEW YEAR'S GREETINGS

激動の時代の中で 地域に貢献できる 組織の基盤作りを

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は愛媛大学医学部より、相引眞幸名誉教授を病院長として、香川大学医学部より、細川克美氏を看護部長として迎え、組織の力が大きく躍進し、新体制のもとで、救急医療体制の充実を含め市民の皆様への出前講座や介護予防教室・地域医療フォーラム等の啓発活動、医療従事者対象の勉強会など、病院・グループ内に留まらず、地域に向けての医療・介護・福祉の向上に努めて参りました。

また、働き手の確保については、医療・介護にとって大きな課題です。少子高齢化により生産年齢人口の減少が懸念される中、ミャンマーからＨＩＴＯ病院に6名、健康会に3名の外国人研修生を迎える事が出来ました。彼女たちの純粋で素朴な人柄が、現場に癒しと安らぎを与えてくれています。日々学びながら、地域に溶け込んでもらいたいと思っています。

２０１７年より始まった未来創出ＨＩＴＯプロジェクトも3年目を迎え、徐々に現場でのＩＣＴの活用が推進され、昨年6月に３００台を導入したiPhoneによる情報共有は、メディカルスタッフの多職種連携に大きな効果を発揮し、病院内の連携からグループ内へ広がっています。今年は地域への活用を拡大し、医療介護連携を支えるツールに育てて参りたいと思います。

時代が令和へと変わり、社会情勢の変化のスピードの速さを実感しております。医療・介護を取り巻く環境は年々厳しくなっていますが、このような時代だからこそ、変革の機会と考えます。令和の時代に変わり、世代が変わり、人も変化しています。時代の変化を捉えながら、目指すべきヴィジョンを明確にし、全職員がワンチームとなり、自ら考え行動する集団へと変化して、地域に貢献して参りたいと思います。本年も何卒よろしくお願いいたします。

HITO病院 理事長
石川ヘルスケアグループ 総院長
石川 賀代

NEW YEAR'S GREETINGS

救急医療体制と 更なる連携強化で 安心の地域医療を

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

4月に病院長として着任し、はや10ヶ月が過ぎようとしております。着任後より、専門である圏域内の救急医療体制の充実に奮闘し、漸くこの1月から救急ワークステーション（以下ＷＳ）が四国中央消防でも試行されることになりました。ＷＳは救急輪番病院に救急隊員が常駐し、病院から出動をいたします。必要な場合には、病院の医師が同乗することもあり、救命率向上と、救急救命士の能力向上等を目的としております。圏域内の救急を担う救急隊と輪番病院がより密な連携を取り合うことで、救急医療体制の質向上が期待されます。

一方、当院の医療提供体制は、時間を争う脳卒中への対応が向上しました。常勤の脳血管内治療医を招聘し、脳血管内治療科を新設。低侵襲で治療効果の高い「脳血管内治療」の強化を図ると共に、四国中央消防と脳卒中ホットラインを開設し、救急隊との合同での症例検討会や勉強会開催により、更にスムーズな患者の受入体制強化に努めております。新たに国の拠点化事業として始まった「一次脳卒中センター」の認定を受けました。

昨年夏以降、当院の圏域内救急搬送受入率は、市内輪番3病院のうち、唯一50％を超えております。医師・看護師をはじめとするスタッフは本当によく動いてくれ、頭の下がる思いで、当院が名実ともに地域の救急医療を支えているということを実感しております。

最後に、次に私に科せられた使命は、地域の先生方との連携の更なる充実と考えております。限られた資源で、地域の医療・介護提供体制を充実させて行くには、病床と診療の機能分化が必須です。病診・病々連携を更に推し進め、医師不足と言われる当地域でも、他の圏域に負けない地域医療が実践できるよう、環境整備に尽力したいと思います。本年もご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

HITO病院 病院長
相引 眞幸

自分らしく生きる ために 人生の最終段階を考える

最期のことはいつ考える？

「人生の最終段階」と聞いて、どのような状態を想像されるでしょうか。医療・介護業界では、がんなどの病気や老衰によって肉体が死に近づいている状態のことを「終末期」という用語で説明しています。終末期の段階では、意識が朦朧としていたり、人工呼吸器等の装着や認知症によって意思の疎通が難しい方も多くなります。その結果、本人が最後の時をどのように迎えたいかが分からないまま、望まない治療や延命が行われることも少なくありませんでした。

終末期（ターミナル）

近年では、「終末期」よりも前に、患者さん本人の判断に基づいて「人生の最終段階」を見定め、亡くなる瞬間までその人らしい生を全うできるよう、治療や生活、家族も含めて支えていく必要性が認知されてきました。いつを人生の最終段階と捉えるかは、その人の歩んできた道のりや価値観、人生観、死生観によって異なります。そのため、年単位の余命が想定される場合や、別の治療を行えばより長く生きられるという場合でも、本人の考え方と判断次第ではその時点が人生の最終段階になり得ます。

人生の最終段階（エンドオブライフ）

生ききるためのケア

人生の最終段階で、患者さん本人が望むような生き方を実現するためには、医療・介護従事者が患者さんやご家族を支援することがとても大切です。具体的には、次のような支援を行います。

このような関わりの中で、その人らしく生きることを手助けし、また遺される家族のことも支えていきます。

「人生会議」をしてみましょう

「人生会議」とは、お墓の準備や相続に関する決め事などの一般的な「終活」に加えて、人生の最後の期間に次のような事柄をどうするかあらかじめ計画し、話し合っておくことをいいます。

- どこで過ごしたいか
- 誰と過ごしたいか
- どのような医療を受けたいか
- どのような介護を受けたいか
- 大切にしていることは何か
- したいこと／したくないことは何か

多くの患者さん、ご家族は、「縁起でもない」と言って、これらのことを考えたり共有する機会を持っておられません。しかし意思表示ができる時に、かかりつけ医などとも相談しながらしっかり考え、家族や友人などの信頼できる人と話し合っておくことで、人生の終わりの時期をより安楽な環境で過ごすことができ、また遺された家族の心を軽くすることにも繋がります。

最期まで安心して暮らせる 四国中央市の体制作り

人生の最終段階は人によってそれぞれですから、それを支えるケアを行うのは、病院だけとは限りません。施設の介護職や、訪問看護のスタッフ、ケアマネジャーなど、医療・介護の現場で看取りに関わるあらゆる職種が、人生の最終段階におけるケアについて理解を深め、相互に連携して支える必要があります。

当院では12月より、緩和ケア内科の大坂医師を中心に、**「生と死を支える会」**を発足しました。緩和ケアや看取りに関わる医療・介護従事者が、人生の終わりに寄り添うケアを学び、正しく理解することで、地域全体で質の高いケアを提供出来る体制を整えていくことを目的に、次のような活動を行っていく予定です。

①IHG医療・介護従事者の教育・啓蒙
②一般市民の方への啓発活動（講演会）
③医療圏内での連携推進（合同研修会）

まず2020年は、IHGの各施設におけるケアの提供体制の均てん化を第一目標に、勉強会や当院のスタッフによる出張アドバイスを行う予定です。今後は地域の皆様に対しても定期的に講演会を開催し、必ず訪れる人生の終わりについて、家族やかかりつけ医と対話し、考えるきっかけを提供していきたいと思っております。

「この町で暮らしていれば、家にいても、どの病院や施設にいても、安心して自分らしく生を全うできる。」

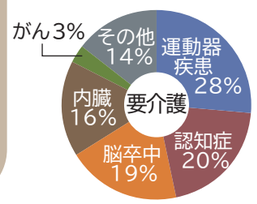
四国中央市をそんな地域にすることができるよう、身近なところから一歩ずつ活動を行って参ります。

緩和ケア内科 統括部長
大坂（おおさか） 巌（いわお） 医師
資　　格：緩和医療専門医
モットー：自他の抜苦与楽
所属学会：日本緩和医療学会
日本がんサポーティブケア学会
日本サイコオンコロジー学会

自分で歩く・地域で治す

～あしや腰の疾患、予防から在宅復帰までを支える～

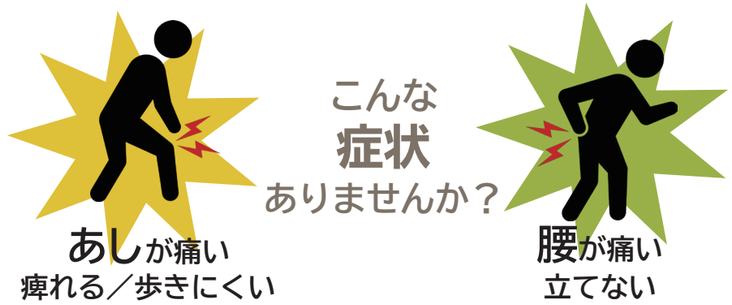
歳をとっても健康で自分らしい生活を送るためには、「自分のあしで立てること・歩けること」が非常に重要です。厚生労働省の調査では、介護が必要となった主な原因の約3割が、骨や筋肉、脊椎などの運動器の疾患によるという結果が出ています。当院ではこれらの疾患に対し、予防からリハビリまでを地域の中で完結できる体制を整えています。



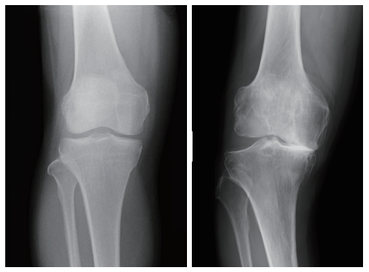
人工関節センター長
整形外科部長

ましま　なおひこ
間島 直彦

日本整形外科学会専門医
日本骨粗鬆症学会認定医
日本体育協会公認スポーツドクター



変形性関節症



負荷がかかっている膝関節や股関節、肩関節の**軟骨が様々な原因で損傷**する病気。高齢化に伴い増加している。

脊椎疾患

腰椎脊柱管狭窄症

変形した椎間板と突出した骨などで神経が圧迫される病気。あしのしびれや痛みにより**長い時間続けて歩くことができなくなる。**

外傷による脊椎損傷

交通事故だけでなく**高齢者の転倒や転落によっても起こる。**運動機能や感覚知覚機能に障害が残ることもある。

骨粗鬆症

高齢に伴い骨が脆くなり、少しの衝撃で骨折することがある。痛剤で痛みを我慢し、ヒビや骨折を放置したり、治療後に必要以上に安静を保つと、**その後の運動機能の低下に繋がる。**

適切な処置で症状が改善するものもあります
我慢して放置せず受診してください

HITO病院・IHGでできること

予防

・ロコモ教室
・介護予防教室
・骨粗鬆症専門外来

高齢になるほど運動機能は低下し、立つことや歩くことが難しくなります。(ロコモティブシンドローム)一番大切なのは病気になる前に予防することです。当院ではロコモ教室や介護予防教室を定期的に開催し、元気に動けるための運動のコツをお伝えしています。また骨粗鬆症専門外来では、骨を強くする治療を行うことで骨折を予防します。

ロコモ教室
年6回開催

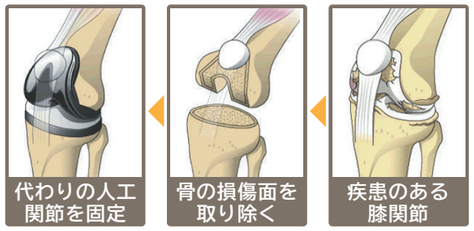
骨粗鬆症専門外来
第1月曜日 14:00～16:00
TEL：0896-58-2226
※必ずご予約が必要です。

治療

・大学との連携
・人工関節センター
・医療機器

愛媛大学の地域医療再生学講座より医師が派遣され、当院の医師と協力して診療や手術を行っています。また人工関節センターを設置しており、ナビゲーションシステムや術中CT等の機器を用いて膝・股・肩の人工関節手術を行っています。地域の方が地域の中で専門的な治療を受けられる体制を整えています。

人工膝関節置換術の流れ



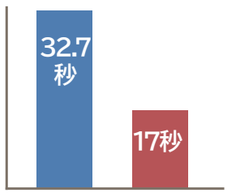
整形外科
TEL：0896-58-2226
※必ずご予約が必要です。

リハビリ

・早期からのリハビリ
・回復期リハビリ病棟
・装着型サイボーグ

当院では、手術後急性期の段階からリハビリを行うことで、早期回復を目指しています。また回復期リハビリテーション病棟では、365日体制でリハビリテーションを行っています。必要に応じて、装着型サイボーグを用いたロボットリハビリも積極的に実施しており、在宅復帰につなげています。

「HAL®腰タイプ」によるリハビリ前後の
5回立ち上がりテストの結果



約48%スピードUP！

・太腿の付け根を骨折し手術を行った患者さん
・平均年齢：83歳
・訓練頻度：週5回

在宅

・通所リハビリ
・訓練リハビリ
・退院後訪問

退院後はグループの通所リハビリ・訪問リハビリサービスをご利用いただくことで、継続して在宅復帰をサポートできるようIHG全体で体制を整えています。また回復状況などにより、入院中特に注意を要した患者さんについては、HITO病院の多職種による退院後訪問も行っています。

通所リハビリテーション アイリス
TEL：0896-29-5773

訪問リハビリテーション アイリス
TEL：0896-58-0011

薬の安全を守るプロフェッショナル 大活躍の病棟薬剤師

薬のプロフェッショナルとして、チーム医療の活性化や病棟の円滑な運営、患者さんの安全に大きく貢献している当院の病棟S薬剤師の取り組みを紹介します。

その① 無駄なお薬、ダメ・ゼッタイ

一度に複数の疾患に罹っていたり、様々な医療機関で薬を処方されたりすることで、「必要のない薬」を飲んでいることがあります。特に高齢の中に多いのですが、多剤併用には次のような様々な問題があり、近年注目されています。

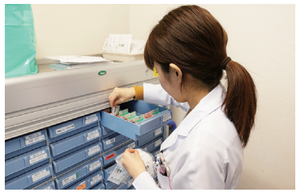
- 副作用の危険性増加
- 転倒などの危険性増加
- 飲み忘れや飲み間違い
- 医療費の増加

当院では多職種がチームを組んで、多剤併用をなくすための取り組みを行っています。各階の病棟薬剤師は、入院時に患者さんが持参した薬を検査結果等と照らし、本当に必要な薬かどうかを多職種と協議します。そして必要のないと思われる薬については医師へ提言し、減薬へ繋げています。また週に1度は患者さんのお部屋へ訪室して薬の効果や副作用、飲み方等を説明する「服薬指導」を行っており、患者さんの状況を見ながら適切な服薬をサポートしています。

その② 業務移譲でミスを減らし、専門性を生かした働き方にも貢献

チーム医療の円滑化・活性化

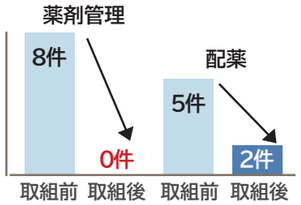
これまでは、入院患者さんへの定期処方薬が切れそうになる度に、看護師が医師に問い合わせて処方の依頼をしていました。しかし現在は薬剤師がその間に入ることで、看護師から得た患者さんの状態を元に適切な処方を医師と相談・提案できるため、より素早く円滑なコミュニケーションが実現しています。また医師に比べて病棟薬剤師には薬に関する些細な質問がしやすく、病棟スタッフの知識の向上にも一役買っています。



インシデントの減少

また、病棟の配薬カートに入院患者さんの薬をセットする業務も、今年の4月より看護師から薬剤師へ委譲しました。薬のプロである薬剤師が確認・セットを行うことで、薬に関するインシデント（事故に繋がりかねない事象）が減少し、急性期病棟では薬剤管理のインシデントが0件になりました。

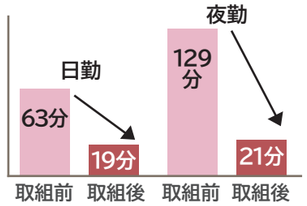
インシデント件数（急性期病棟）



専門性を活かした働き方実現

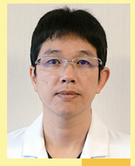
病棟薬剤師の活躍によって、看護師の残業時間が大幅に減少し、その分ベッドサイドでケアを行う時間が生まれました。薬剤師は薬の管理、看護師は患者さんのそばへと、それぞれの専門性を活かした働き方で、今後も患者さんの安心・安全を守ります。

看護師の残業時間（急性期病棟）



入院中にお薬のことで困ったら、病棟薬剤師にご相談ください！

医師紹介



外科・肛門外科・消化器外科医長
大木 悠輔（おおぎ ゆうすけ）
資格　日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医　など
ひとこと　腹腔鏡などの傷の小さい治療を積極的に行っています。治療などについて何でも相談してください。

内科医師
小林 聖幸（こばやし きよゆき）
資格　日本内科学会認定医、日本消化器学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医・指導医、日本胆道学会 指導医
ひとこと　消化器疾患、胆膵疾患等についていつでもお気軽にお尋ね下さい。

整形外科医師
楠目 浩祐（くずめ こうすけ）
専門分野　整形外科
ひとこと　誠心誠意診療させていただきます。

外科医師
渡部 克哉（わたなべ かつや）
専門分野　消化器外科
ひとこと　常に患者さまに寄り添った医療を行います。宜しくお願いします。

日経WOMAN「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2020」受賞

当院理事長の石川 賀代が、月刊誌『日経WOMAN』が選ぶ、「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2020」の受賞者に選ばれ、東京ミッドタウンにて行われた表彰式及びトークセッションに出席しました。

高齢化と人口減少が加速する地方において、ICTを用いた働き方改革を全国に先駆けて実施したことを評価されての受賞となりました。これを機に、患者さんはもちろん、働くスタッフや四国中央市にお住まいの皆さんが、いつまでもこの町で自分らしく「いきる」ためのお手伝いができる病院、グループとなれるよう、職員一同、より一層努力して参りたいと思います。

第7回 地域連携医療懇話会

11月27日(水)に、第7回地域医療連携懇話会を行いました。

市内外の医療機関や行政等より、合わせて61名の方がご参加くださり、今後の連携体制に対する前向きなご意見を伺うことができました。

四国中央市長 篠原(しのはら) 実(みのる)様、宇摩医師会長 高木(たかぎ) 恭也(きょうや)様からの温かいお言葉に加え、ご参加いただいた関係機関の皆様と意見交換を行うことで、医療・行政機関との連携の重要性を再認識する事が出来ました。今後も、この地域にお住まいの方が安心して暮らせる町づくり・体制作りを、地域の皆様と共に進めていきたいと思います。

サテライトセンター市民公開講座

11月18日(月)に、愛媛大学地域サテライトセンターの医師による市民公開講座を開催しました。

今回は「健康で長生きするために」というテーマで、活動報告も兼ねた講演を行いました。サテライトセンターの教授で当院人工関節センター長の間島 直彦医師からは、地域医療再生学講座の歩みと整形外科の役割について、同センター助教で当院整形外の見崎 浩医師からは、腰痛の診断や治療について、同センター助教で当院脳神経外科の尾崎 沙耶医師からは、脳卒中にならないための基礎知識をお話ししました。

当日は80名を超える方々にご参加いただき、盛会のうちに終了しました。

第6回 健康フェスタ

11月16日(土)に、第6回健康フェスタを開催しました。

血糖測定をはじめとする体験や身体測定、メディカルスタッフによる相談コーナー、ヘルシー食品や減塩商品などを紹介するサンプルコーナーなどを設けました。

当日は約70名の方にご参加いただき、終始明るい雰囲気でイベントを終えることができました。アンケートでは、健康寿命を延ばしたい、運動も頑張りたいなど前向きなご意見もいただきました。講義でお話しさせていただいた生活習慣病予防に関する内容を、ぜひ今後の生活習慣に活かしていただければ幸いです。

ご参加いただきました皆様、本当にありがとうございました。

一次脳卒中センター指定

当院では24時間365日、救急患者さんの受け入れをしております。特に脳卒中に対しては今年度、一般社団法人日本脳卒中学会より一次脳卒中センターの認定を受けました。

一次脳卒中センターとは、地域医療機関や救急隊からの要請に対して、24時間365日脳卒中患者を受け入れ、急性期脳卒中診療担当医師が患者搬入後できる限り速やかに診療を開始できるなどの用件を満たした医療機関のみ認定が受けられ、宇摩圏域では、当院が唯一の認定施設です。

脳卒中は発症後の迅速な治療が改善の鍵となる病です。これからも地域の患者さんを地域で治すことができるよう、救急隊等関係機関との連携を強化し、これまで以上に脳卒中急性期医療の充実を目指してまいります。

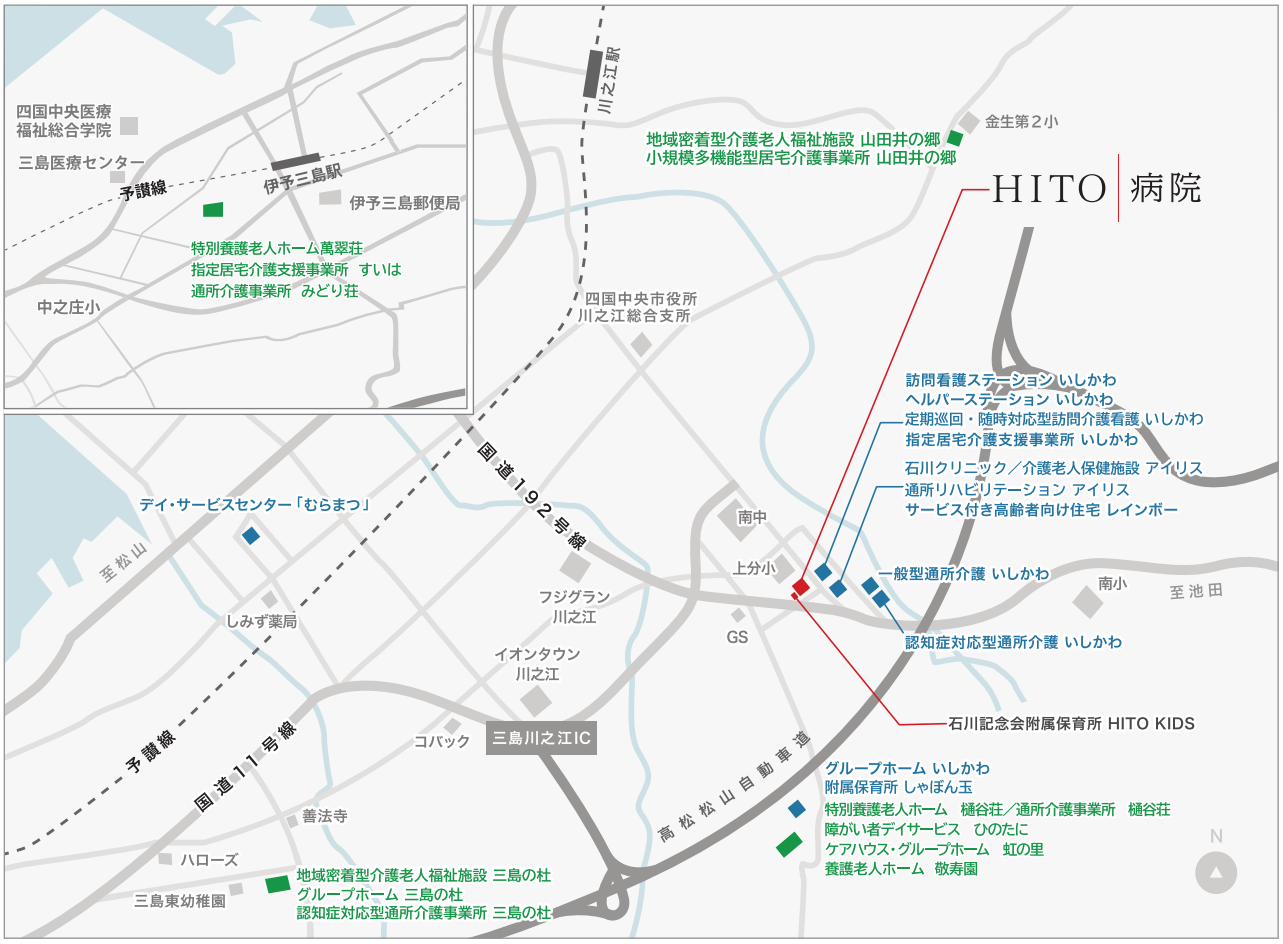
当院の強み

- 脳血管内治療専門医を含む5名の常勤医で脳卒中に対応
- 24時間救急対応／画像診断／手術
- rt-PA治療対応
- 多職種によるチーム医療
- 超急性期からの集中的なリハビリテーション
- 装着型サイボーグHAL®によるリハビリテーション

イベントスケジュール

詳しい情報は、HPや院内掲示でお知らせいたします。

日　時	内　　容	場　所	お問合せ先
2/10(月) 13:30～	HITOサロン～お茶会～ ※がんの方とそのご家族のためのサロンです	HITO病院10階 談話室	0896-29-5320 HITO病院 サポーティブケアチーム
2/15(土) 14:00～	市民公開講座 「緩和ケアのススメ」「じいちゃん帰ろう」	四国中央市 消防防災センター	
2/27(木) 19:00～	市民公開講座 「成人てんかんとパーキンソン病に対する最新治療について」	しこちゅ～ホール （四国中央市市民文化ホール）	0896-29-5664 HITO病院 経営管理室
3/9(月) 19:00～	地域医療講演会 「最新の心臓病の予防と治療について」	しこちゅ～ホール （四国中央市市民文化ホール）	0896-29-5704 HITO病院 地域医療介護連携課
3/22(日) 13:30～	宇摩地域医療フォーラム 「自分らしい最期を迎えるために」	川之江ふれあい交流センター	0896-29-5664 HITO病院 経営管理室



表紙イラスト ｜ 由霊山 慈尊院 三角寺（ゆれいざん じそんいん さんかくじ）

四国 88 ケ所霊場第 65 番札所「三角寺」は、愛媛県最後の札所です。古くから子安観音、厄除観音として信仰されています。山内には樹齢 3,400 年の桜があり、1795 年に俳人小林一茶が訪れたとき、「是てこそ　登りかひあり　山桜」と詠まれたほど、爛漫の桜を見ることができます。

HITO病院
Official Site

HITO 病院

社会医療法人※石川記念会 HITO病院
〒799-0121 愛媛県四国中央市上分町 788 番地 1
TEL：0896-58-2222 FAX：0896-58-2223 URL：hito-medical.jp

※社会医療法人とは、公的機関に準ずる機関で、営利を目的としない公益性の高い医療法人のことです。